

トイレ

利用者が
不便に思う
ポイント

多くの方の意見

- トイレの使用状況が外からわかりづらい。
- 操作ボタンが多いと、どれを押せばよいか
わかりづらい。
- ベビーチェアやオストメイト対応設備など、
利用したい設備がどのブースにあるかが分
からなくて利用しづらい。



● 洗面台の位置が高い
と、手が届かない。

鏡は子どもや車いす使用
者から長身の人までの目
線の高さに配慮する。

一般トイレ内の各ブースの設備が違う場合は、
案内サインを用いて表現する。(ベビーチェア
有、チェンジングボード有、オストメイト対応
設備有、和式、洋式の別など)

視覚障がいのある方に配慮して、
トイレの出入口に触知図を配置
する。(P16参照)

洗面器下部に車いすで膝
が入るスペースをつくる。

壁掛け式低リップ
タイプにすると、
利用者に使いやす
く、管理者も掃除
がしやすいトイレ
になる。

小便器の前に幅が20cm程度
の面台があると、荷物を置くこ
とができ、便利になる。



最低1つの小便
器には、手すり
を設置する。

複数のブースがある場合、手
すりの右使用・左使用は、
バランスよく配置する。

荷物置きやフックを設ける。
荷物置き台には杖や傘を立
てかけておけるようなくぼ
みがあると便利。

便器洗浄
ボタン

オストメイト対応設備を
設置する。

操作ボタンなど、JIS基
準にあうように配置する。

このように使われています。

- オストメイト(人口肛門等保有者)
- ・パウチ(便をためておくための袋)から排泄
するために汚物流しを使用。
 - ・腹部を洗浄するため温水シャワーも必要。

※外見ではわからないため、多機能トイレとは別に
一般トイレにオストメイト対応設備があると人の
目を気にせず、利用しやすい。

